



輝け！北っ子

平成30年7月10日発行

7月号

発行責任者 紺野 宗作

もうすぐ1学期終了…協働的な学びの創造へ向けて

早いもので、あと少しで1学期も終わろうとしています。先日の授業参観では、多数の保護者の皆様の参加を頂きありがとうございました。子どもたちの学習の様子はいかがでしたか。北小学校では、今年度より「児童の深い学びの実現に向けた協働的な学びの創造」を研究テーマとして掲げ、日々の授業の充実に努めています。少し難しい言葉のテーマですが、言い換えれば「子ども達が自分で考え、友達と考えをやり取りし、その伝え合う活動を通して、友達のよさを認め、自分の考えを深めたり広げたりすることができる授業づくり」ということです。子どもは友達とのかかわりの中で学習することによって成長していく存在であることを常に意識し、より充実した授業にしていきたいです。

ここで、北小学校の授業を通して「目指す児童像」を紹介します。



1 自己肯定感

「学ぶのは楽しい」「自分にはよいところがある」と思える児童の育成

2 学びに向かう力

「やってみたい」と主体的に学習に取り組んだり、互いのよさを生かしながら他者と協働したりできる児童の育成

3 自己や他者を大切にできる心

「学び合い」を通して、子ども同士が考えを聴き合い、お互いを尊重することができる児童の育成

子どもたちが、なかまの力を借り合いながら、課題に向かって一人残らず学びに参加している授業を目指し、日々積み重ねていくことで、この3つの児童像を達成できるよう努力していきたいと思えます。

もうすぐ夏休みになります。各学年で宿題等が出されますが、ご家庭でも、学びに向かう力を引き出すため、お子さんの疑問に耳を傾け、学習の手掛かりになるようなヒントを出して頂いたり、時には、一緒に課題に取り組んで頂いたりするとありがたいです。その際、単に答えを教えるのではなく、考えの道筋を大切にさせてください。例えば「公式を使って答えを導き出す」ことよりも、「なぜ、この公式があるんだろう」とか「こんなやり方もあるかも」という発想を大切に頂けると深い学びにつながっていきます。ぜひご協力よろしくお願いします。

北っ子あいさつ見守り隊ありがとうございます！

今年度から活動を始めた「北っ子あいさつ見守り隊」ですが、子ども達の登下校をあちこちで見守る姿が見られ、本当に感謝しております。

7月の初め、35℃を上回るとも暑い日がありました。本当に暑い中、1年生にとって登下校は体力的にも大変です。その日は、私の出張と1年生の下校の時間帯が重なっていたので、車で走りながら下校途中の1年生を見て回っているところでした。ある坂を登り切ったところの日陰に、ある1年生が道路の歩道で座り込んでいました。その時、その1年生のそばに寄り添っていたのが、あの黄色い帽子をかぶった「北っ子あいさつ見守り隊」の方でした。本当にありがとうございました。もし、下校途中の道路で熱中症にでもなったら、1年生一人では対処できません。ありがとうございました。



地域の子どもは地域で育てる、地域の子どもは地域で守る、という理念で始まった「北っ子あいさつ見守り隊」ですが、今後もこの活動を広げていきたいものだと思います。

家読(うちどく)のススメ

学校では、昨年から家読(うちどく)を推奨しています。家読とは、「家族読書」の略語で、「家族みんなで読書をする事で家族のコミュニケーションを深める」ことを目的にした読書運動です。

先日の授業参観の懇談会では、SNS・ゲーム等の夏休みルールを各家庭で子どもと一緒に考えて決めるよう話し合いが持たれました。メディアコントロール力を高め、生み出された時間には、ぜひとも家読を推奨したいです。本をコミュニケーションツールに家族がふれあうことで子どもの情緒の安定が図られることが期待されています。子どもの情緒の安定は、家庭内によいサイクルを生むことにつながります。

家読の感想が寄せられましたので、ご紹介します。

「おこだえませんように」を家族で読んで

私も、毎日、起こってばかりいるなどこの本を読んで思いました。怒る前に「一呼吸」気をつけなければなりませんね。思っているのですが、これからは素直な子どもの心を傷つけないように声をかけていきたいです。

「おばあさんのしんぶん」を読んで

小学校5年生なのに手伝いの他に新聞配達まで……。戦後のお話は、今では想像できない大変な時代だったと思う。人と人とのつながりの大切さを教えてくれた絵本でした。今の時代は一人で生活している方が多いので、てつおのように何かでつながりが作れるといいなと思いました。



* 絵本から家族一緒に学ぶことも多いです！